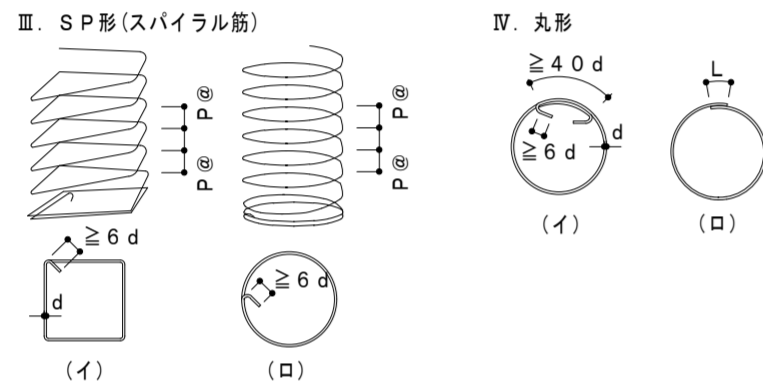
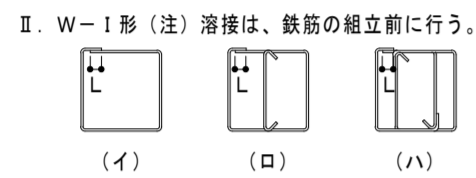
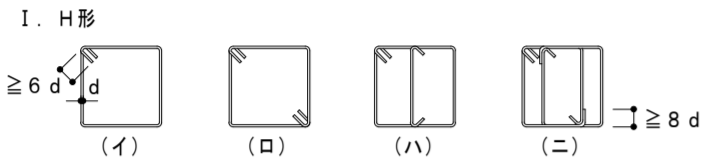


鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 3

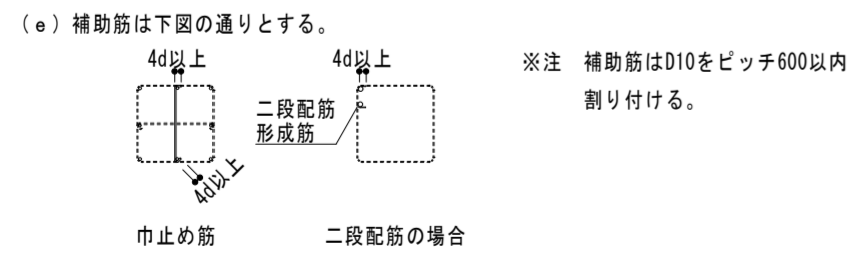
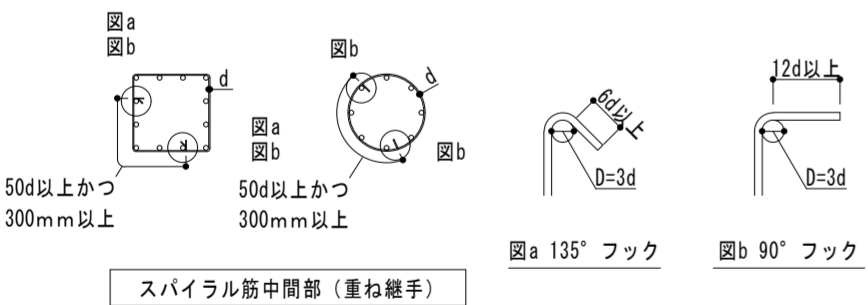
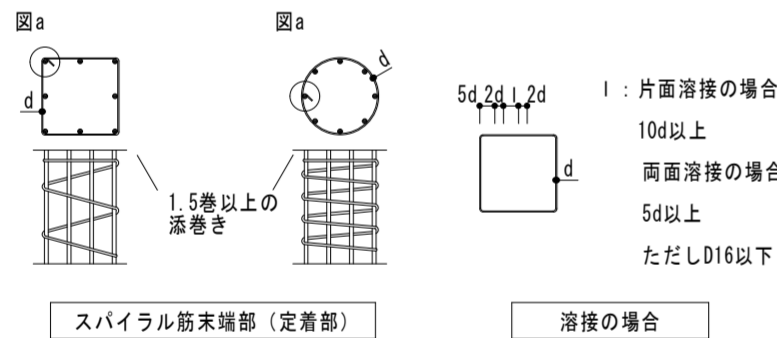
5-2 帯筋

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、図示による。
 (b) 帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。
 (1) H形を標準とする。
 (2) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。
 (3) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は1.5d以上とする。フレア溶接要領は2-5 [溶接] による。



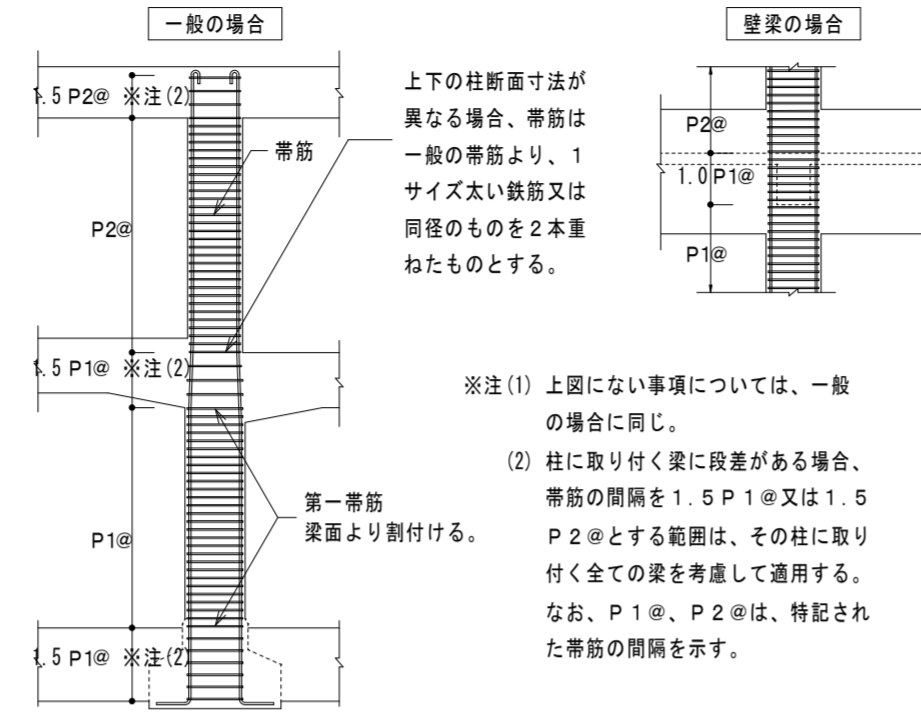
※注 S P形において柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。(d) 参照。

- (c) フック及び継手の位置は、交互とする。
 (d) スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
 (1) 末端は1.5巻以上の添巻きをし、図aのフックをつける。
 (2) 重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図a又は図bのフックをつける。

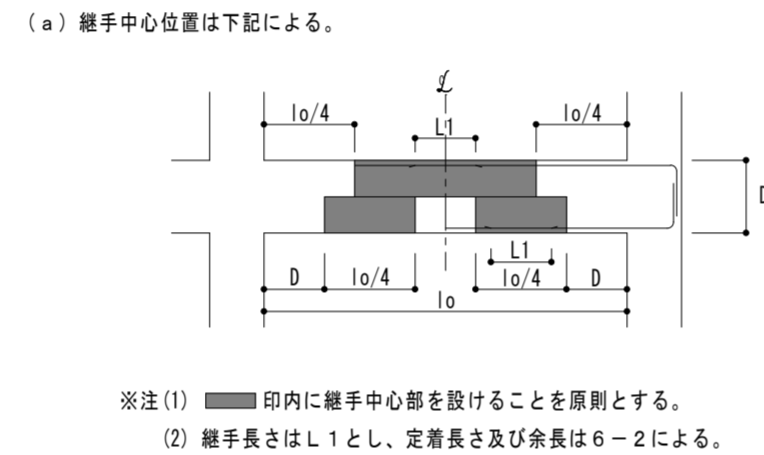


5-3 帯筋の割り付け

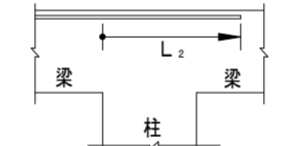
帯筋の割り付けは設計図による。設計図に指示がなければ、下図による。



6-1 大梁主筋の継手及び定着 (一般事項)



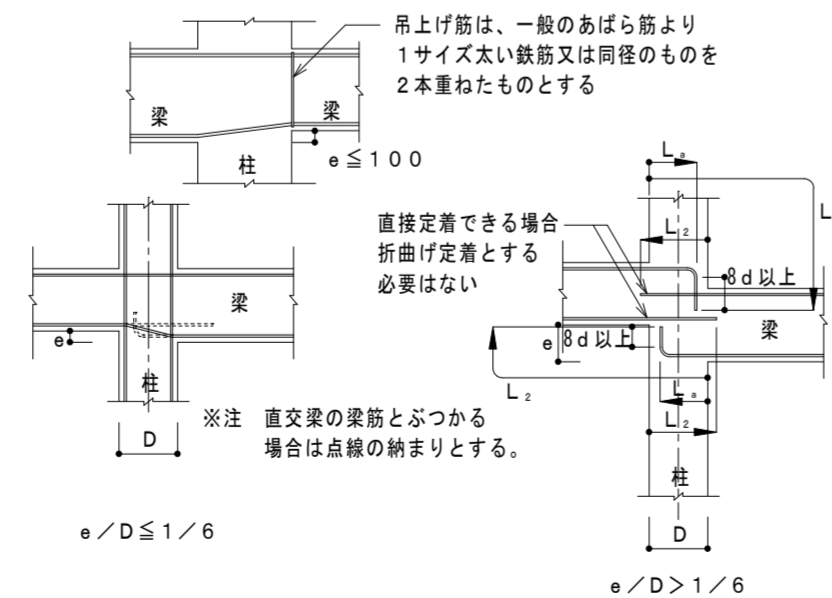
- (b) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。



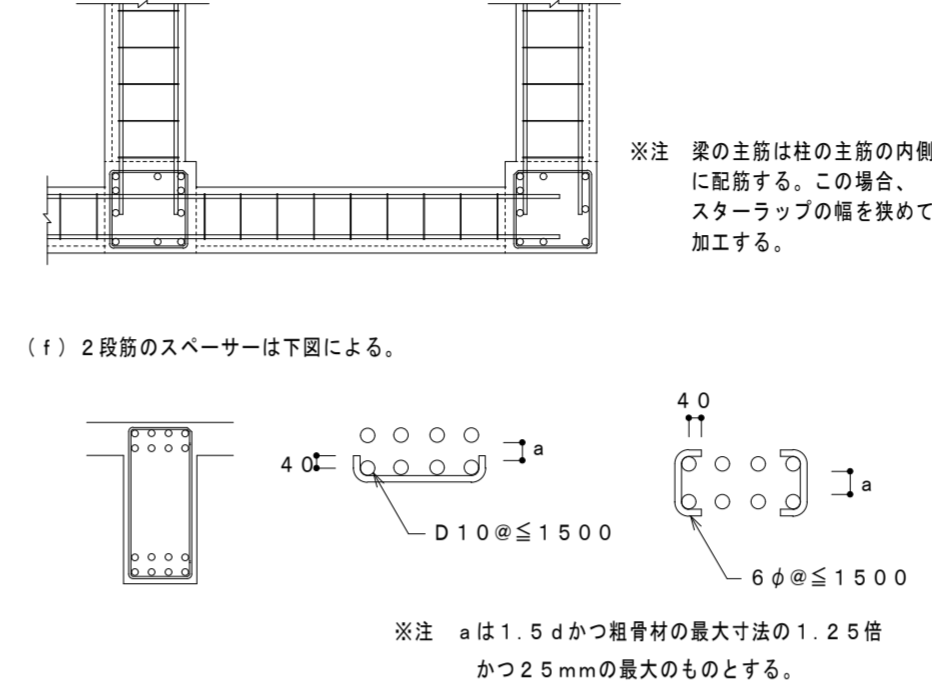
- (c) 前項 (b) の梁主筋を柱内に定着する場合は、次による。
 なお、定着の方法は、2-9 [重ね継手及び定着長さ] による。
 上端筋 : 曲げ降ろす。
 下端筋 (一般) : 曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて、曲げ降ろすことができる。

- (d) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ、1:4とする。

- (e) 段違い梁は、監督職員の承諾を受けて、下図によることができる。

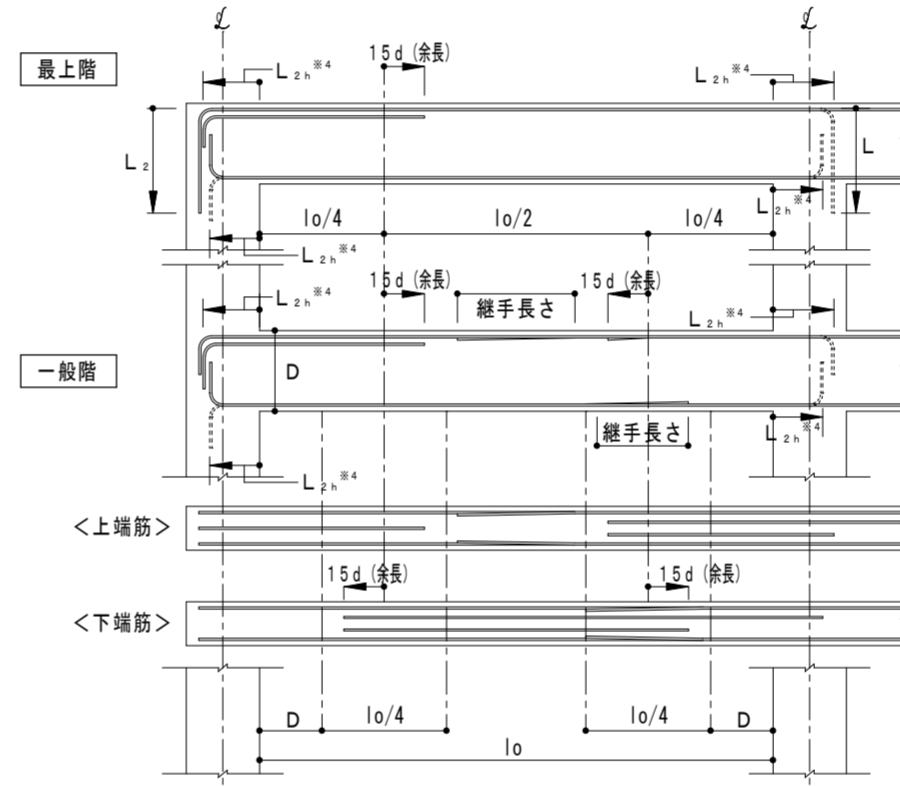


- (g) 柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。
 ただし、梁のフカシが発生する場合、フカシ量については設計図による。
 設計図にない場合は、監督職員と協議する。



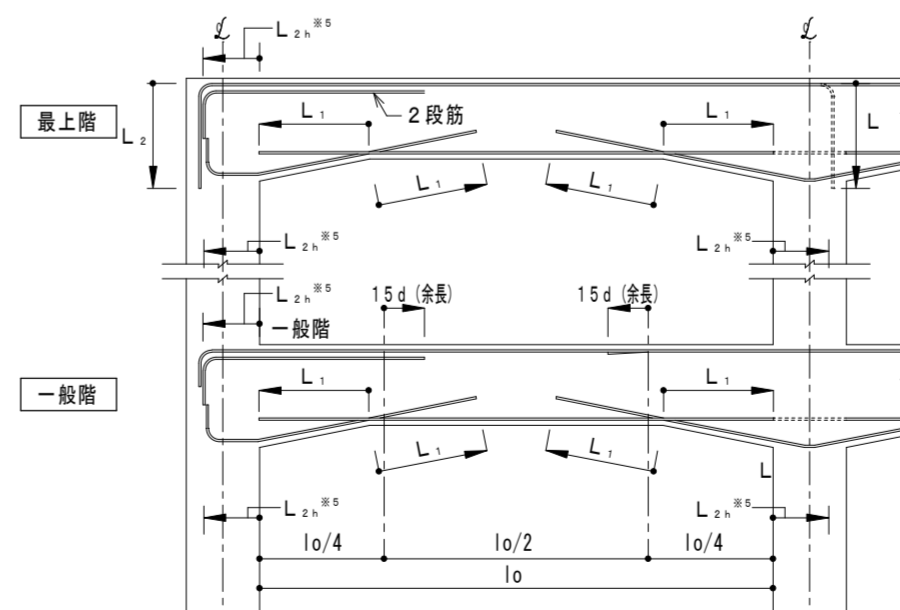
6-2 大梁筋の継手、定着及び余長

- 6-2-1 ハンチのない場合
 ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は下図による。



- ※注 (1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。
 (2) 印は、継手及び余長位置を示す。
 (3) 破線は柱内定着の場合を示す。
 (4) L2を確保できない場合は、2-9による。

- 6-2-2 ハンチのある場合
 ハンチのある場合の定着及び余長は下図による。



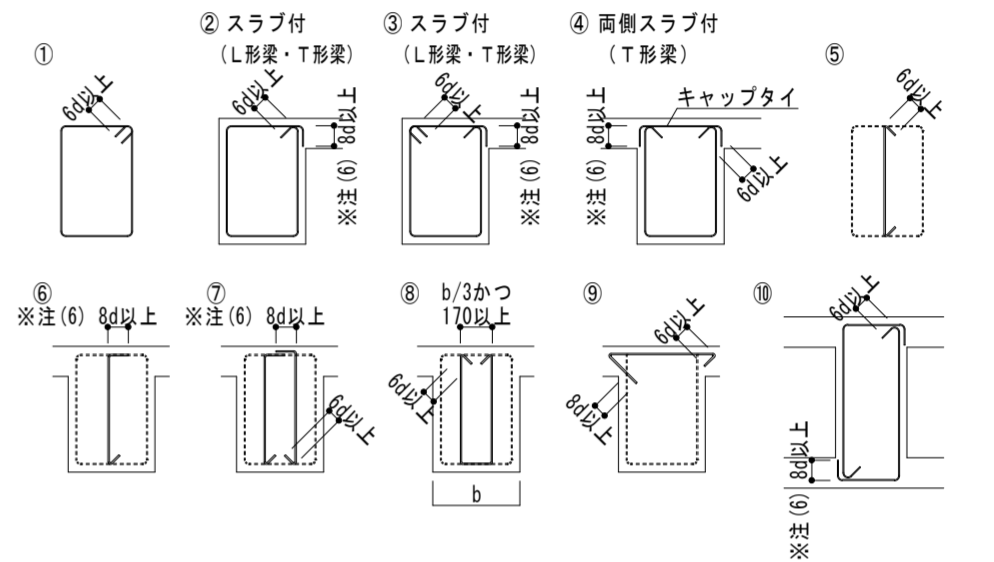
- ※注 (1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。
 (2) 印は、継手及び余長位置を示す。
 (3) 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、-----のように引き通すことができる。
 (4) 破線は柱内定着の場合を示す。
 (5) L2を確保できない場合は、2-9による。

6-3 あばら筋、腹筋及び巾止め筋 (一般事項)

- (a) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
 (b) 巾止め筋及び受け用巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合はD10@1000程度とする。
 (c) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
 (d) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければL2とする。

6-4 あばら筋の組立ての形及びフックの位置

- (a) あばら筋 (副あばら筋を含む) の組立ての形及びフックの位置については下図の通りとする。



- ※注 (1) あばら筋の加工は上図①による。なお、②③④⑥⑦⑨⑩は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
 (2) ⑩は梁せいの大きい場合とする。
 (3) ⑨はピッチ2φで交互配置とする。
 (4) 溶接継手は5-2 [帯筋] を参照とする。
 (5) ⑩は、溶接継手又は重ね継手のどちらかとする。
 (6) 柱面より梁せい1.5Dの範囲は、180°又は135°フックとする。

- (b) フックの位置は、①の場合は交互とし、②の場合はL形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、③の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

6-5 補助筋

- (a) 腹筋及び巾止め筋・その他補助筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。

腹筋	D < 600	不要
	600 ≤ D < 900	2-D10 (1段)
	900 ≤ D < 1200	4-D10 (2段)
巾止め筋	1200 ≤ D	D10@300以内
受筋		D10@1000以内で割り付ける。
受筋		D10@1000以内で割り付ける。

- (b) 壁梁の場合の腹筋及び巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。



TITLE (仮称) 長田・新居小学校建設工事 (建築主体工事)

ARTICLE

REVISION

管理建築士

DESIGNER

NAME

DATE

SCALE

DRAWING NO

ORIGINAL NO

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

2017.06

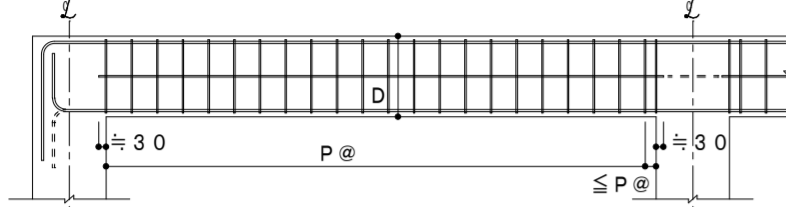
(A2)

S-04

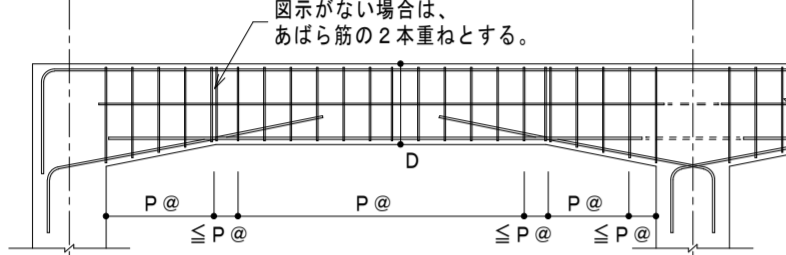
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 4

6-6 あばら筋の割り付け

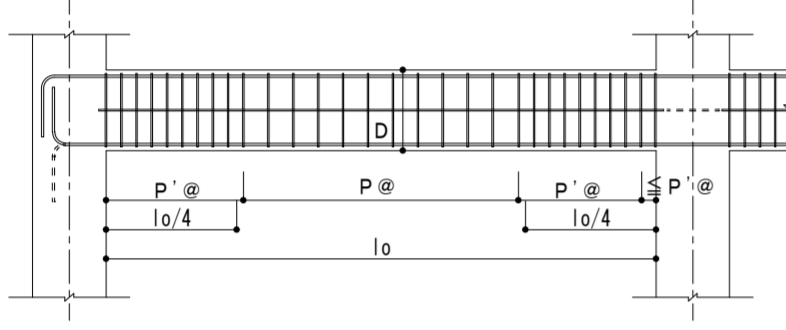
(a) 間隔が一律でハンチのない場合



(a) 間隔が一律でハンチのある場合



(c) 梁の端部で間隔の異なる場合

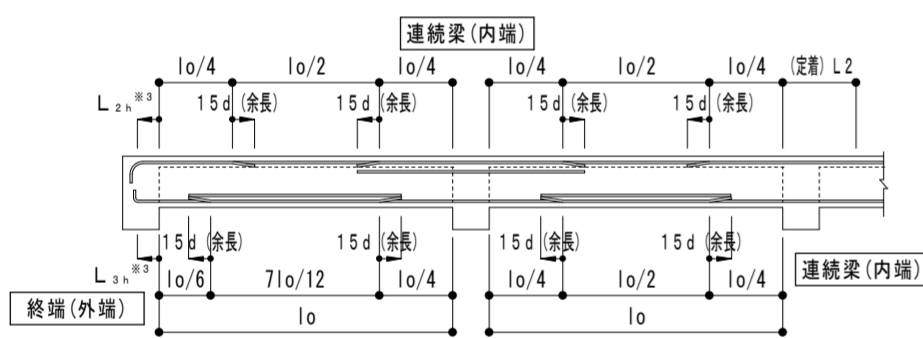


※注(1) あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 (2) 図中の P@, P'@ は、図示されたあばら筋の間隔を示す。

7-1 小梁主筋の継手、定着及び余長

7-1-1 連続小梁の場合

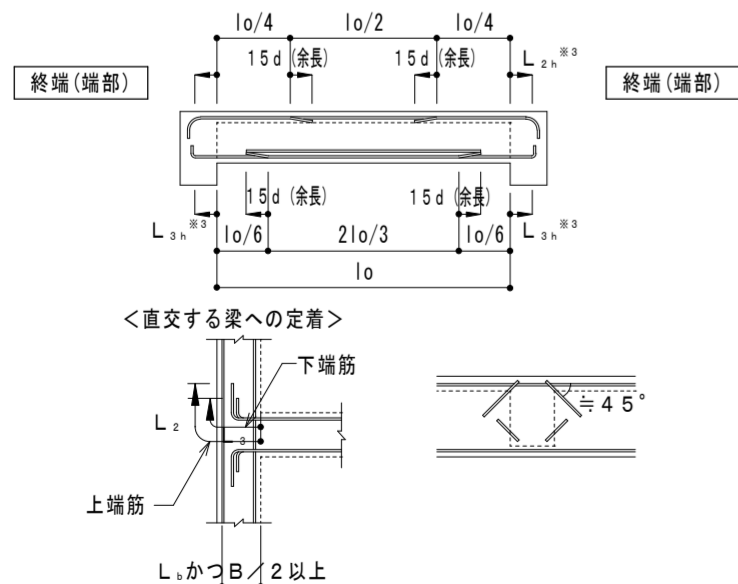
連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。



※注(1) 印は、余長位置を示す。
 (2) 上図にない事項は、4 [基礎梁] 及び 6 [大梁] による。
 (3) L_{2n} 、 L_{3n} を確保できない場合は、2-9 による。

7-1-2 梁の端部で間隔の異なる場合

梁の端部で間隔の異なる小梁の継手、定着及び余長は下図による。

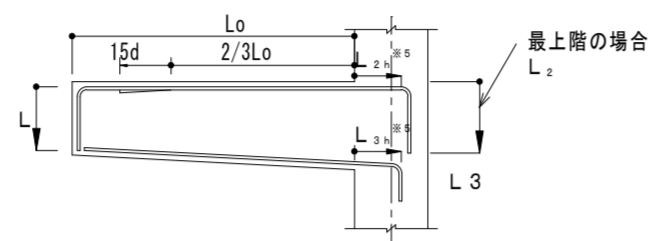


※注(1) 印は、余長位置を示す。
 (2) 上図にない事項は、4 [基礎梁] 及び 6 [大梁] による。
 (3) L_{2n} 、 L_{3n} を確保できない場合は、2-9 による。

7-2 片持ち梁主筋の定着及び余長

7-2-1 先端に小梁のない場合

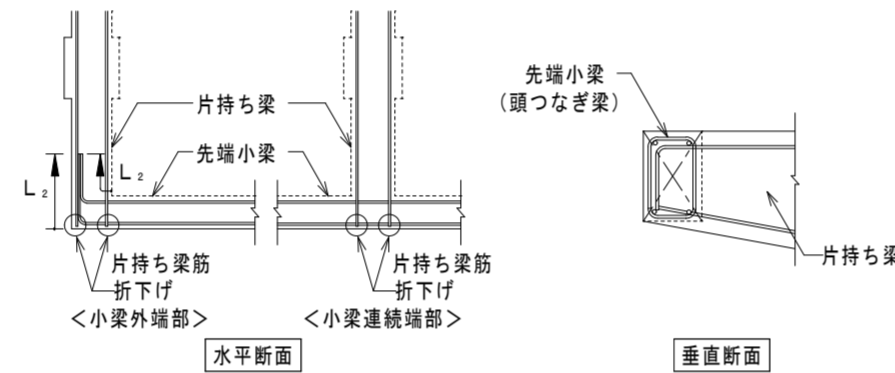
先端に小梁のない片持ち梁筋の定着及び余長は下図による。



※注(1) 上図にない事項は、6 [大梁] による。
 (2) 印は、余長位置を示す。
 (3) 先端の折曲げの長さ L_1 は、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
 (4) 最上階は通し配筋として、隣接する梁へ定着する場合は設計図の特記による。その場合、柱頭部に拘束筋を配筋する。
 (5) L_{2n} 、 L_{3n} を確保できない場合は、2-9 による。

7-2-2 先端に小梁のある場合

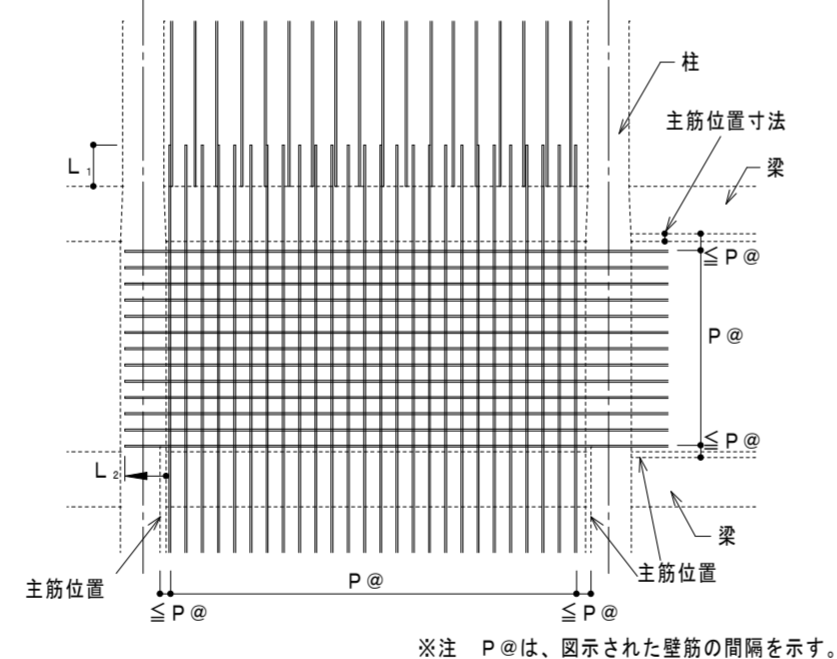
先端に小梁のある片持ち梁筋の定着は下図による。



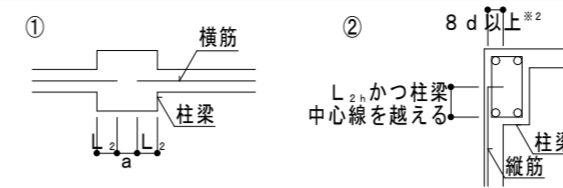
※注(1) 上図にない事項は、前項 7-2-1 による。
 (2) 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
 (3) 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

8-1 壁配筋 (一般事項)

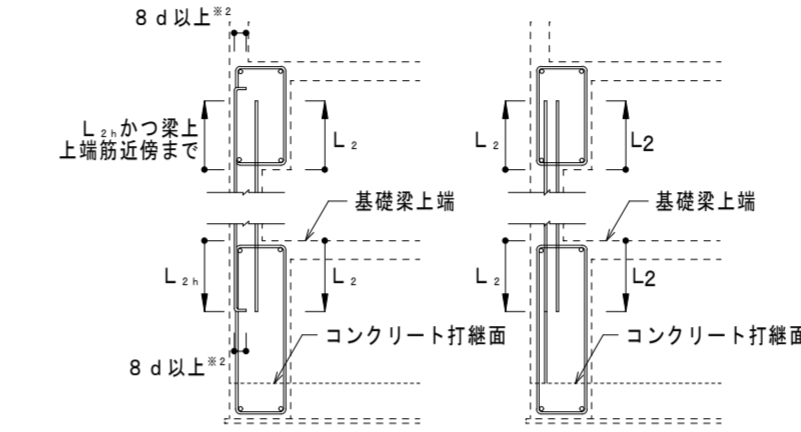
(a) 一般部壁筋の配筋は、下図による。



※注 P@ は、図示された壁筋の間隔を示す。
 (b) 特記なき場合は壁配筋の重ね継手は L_1 、定着の長さは L_2 とする。
 (c) 中止め筋は、縦、横とも $D10@1000$ 程度とする。
 (d) 原則として、柱・梁の中には壁筋の継手は設けない。
 (e) 横筋を、1 スパンごとに柱に定着させてもよいが、柱と同一面に壁がある場合には、外側の鉄筋は直線定着長さが確保できる場合でも、先端を 90° に折曲げ 150mm 程度のみこませる。
 (f) 柱・梁への壁筋定着詳細については下図①~②による。



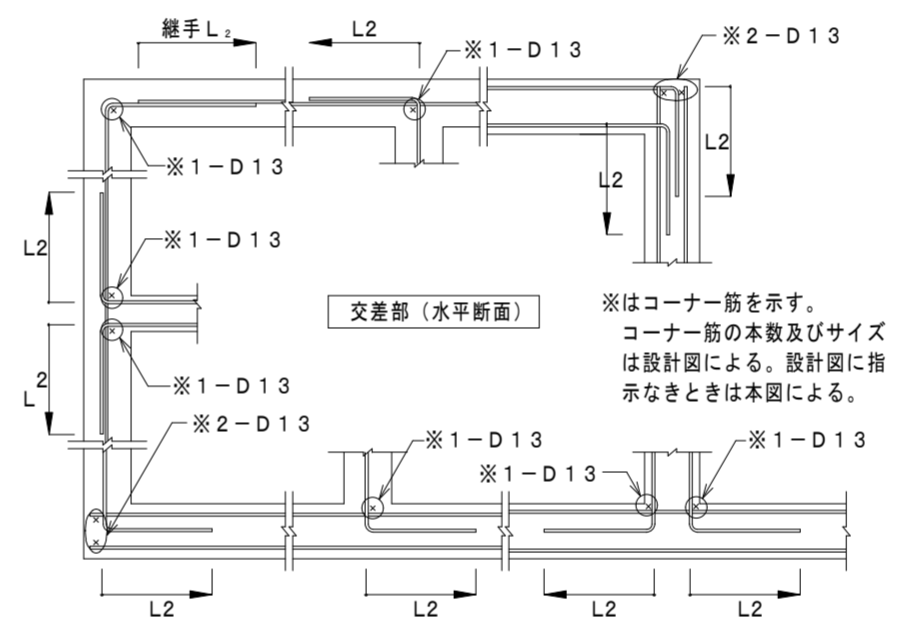
※注(1) a 区間の部分は通し配筋でもよい。
 (2) 耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さを $8d$ かつ 150mm 以上とする。
 (h) 地下外壁の壁筋の定着は、下図による。



※注(1) 地下外壁の外側鉄筋は、耐圧スラブ上端まで下げる。
 (2) 耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さを $8d$ かつ 150mm 以上とする。

8-2 壁の交差部および端部の配筋

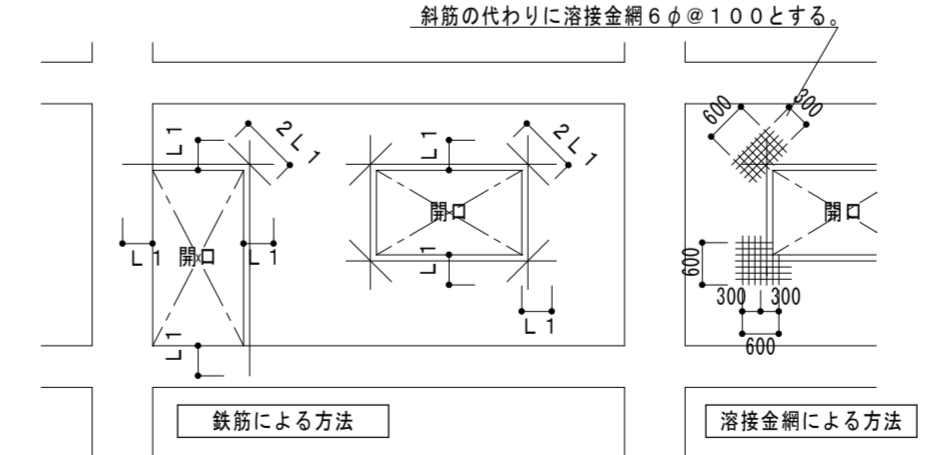
壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。



※はコーナー筋を示す。コーナー筋の本数及びサイズは設計図による。設計図に指示なきときは本図による。
 ※注 耐震壁の場合、シングル配筋の場合はフック付とする。ダブル配筋の場合は、下図による。
 (耐震壁の場合) 200 $D10$ 同ピッチ 150 以上

8-3 壁開口部の補強

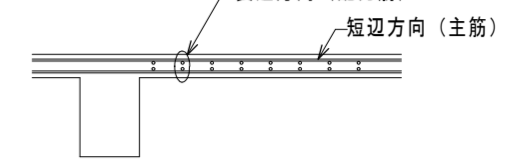
(a) 壁開口部の補強は、設計図による。
 (b) 壁開口部の補強の定着長さは、下図による。



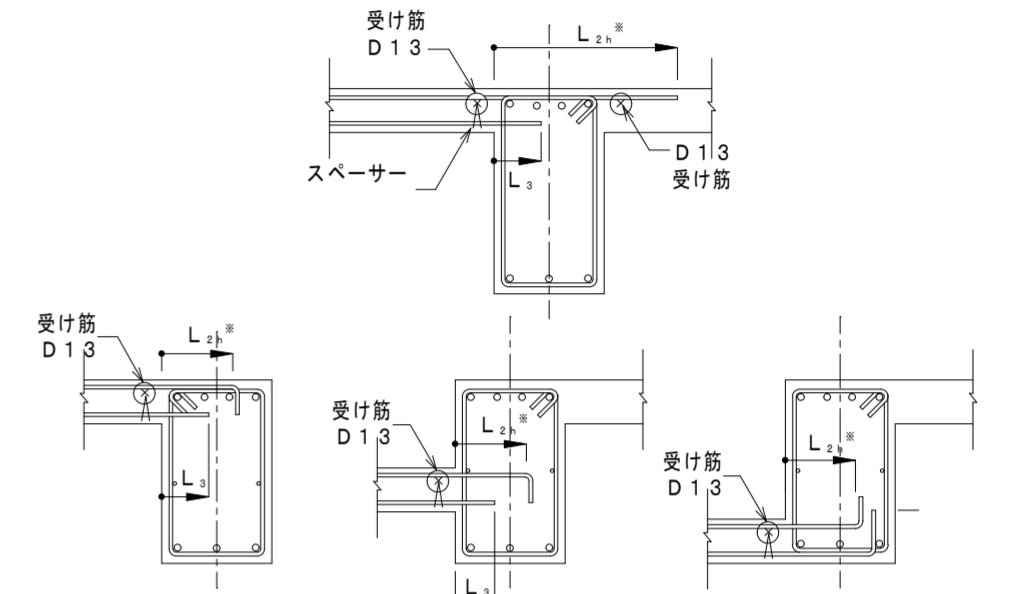
(c) 開口部が柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9-1 スラブの配筋 (一般事項)

(a) スラブの配筋は設計図による。
 (b) スラブの基準配筋図は下図による。



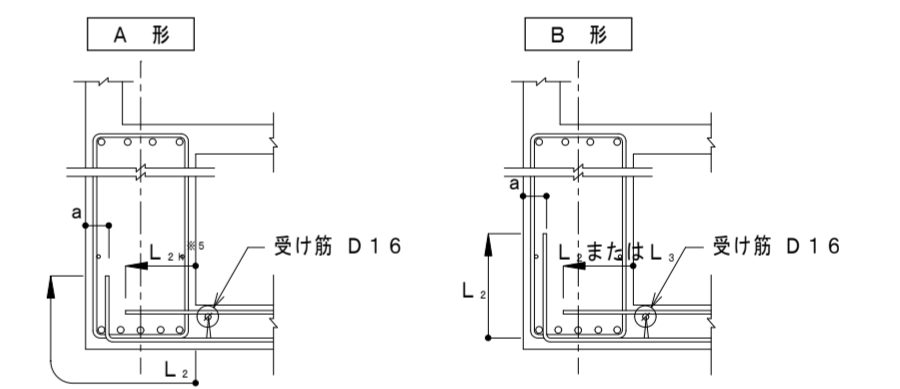
(c) 配筋は中央から割付け、端部は定められた間隔以下とする。
 (d) 重ね継手長さは、 L_1 とする。
 (e) 定着長さ及び受け筋は、下図 (上段) による。ただし、引き通すことができない場合は、下図 (下段) により、梁内に定着する。なお、片持ちスラブの場合は 9-4 による。



※注 L_{2n} を確保できない場合は、2-9 による。

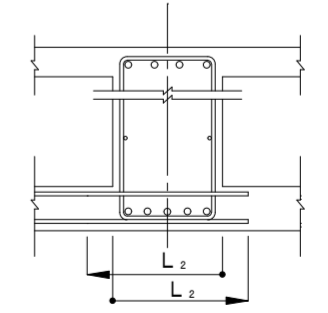
9-2 耐圧スラブの配筋

9-2-1 最終端



※注(1) A形は地震力の柱軸力によって基礎(基礎梁)に浮上りを生じない場合に適用し、B形は浮上りを生ずるときに使用する。
 (2) aは 150mm 程度とする。
 (3) A形又はB形の適用は、設計図による。設計図に指示がなければ、A形とする。
 (4) A形で基礎梁の幅が大きく、下端筋が直線定着となる場合でも、 $8d$ 以上のテールを設ける。
 (5) L_{2n} を確保できない場合は、2-9 による。

9-2-2 連続端



※注(1) 上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。下端筋は連続して引き通すか、または基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。
 (2) 基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の $1/2$ 以上は連続させる。

TITLE (仮称) 長田・新居小学校建設工事(建築主体工事)

ARTICLE

REVISION

管理建築士

DESIGNER

NAME

DATE

SCALE

DRAWING NO

ORIGINAL NO

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)

2017.06

(A2)

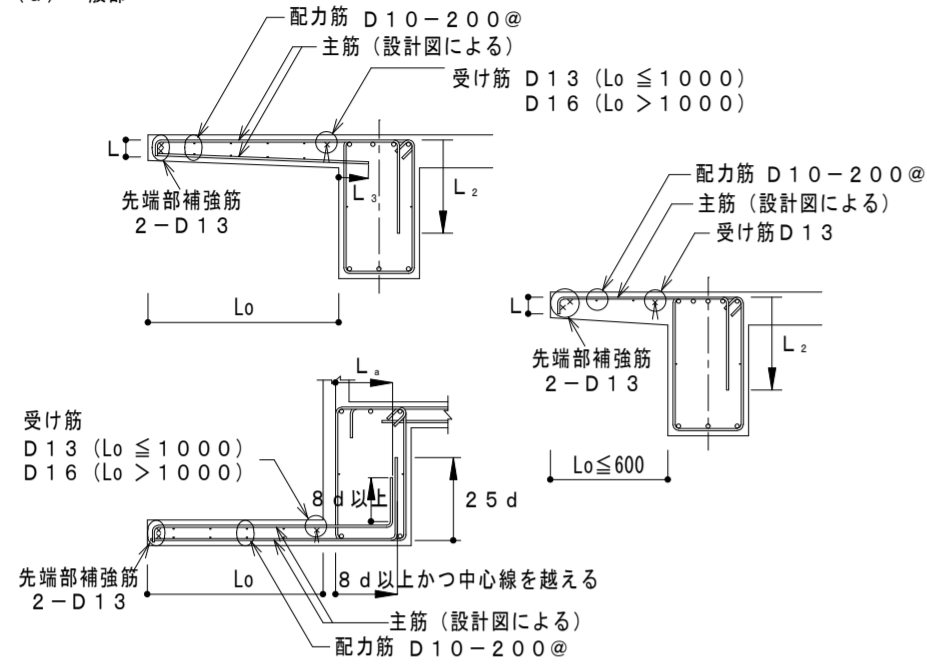
S-05

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 5

9-4 片持ちスラブの配筋

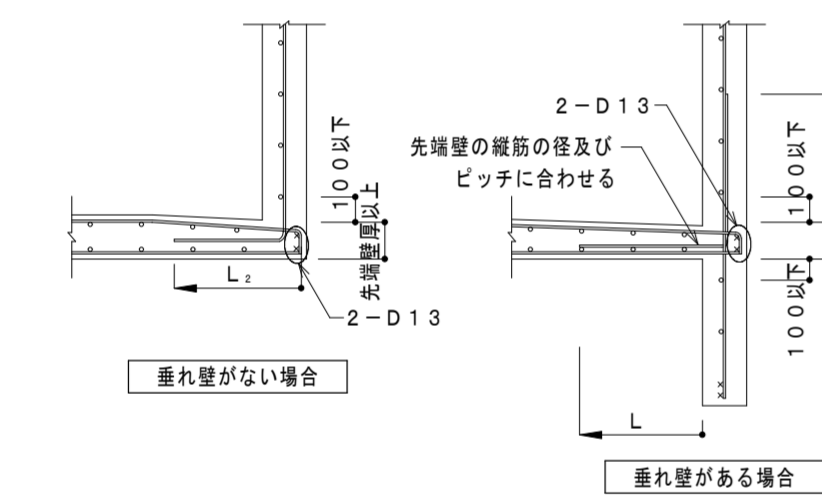
片持ちスラブの配筋は下記による。

(a) 一般部



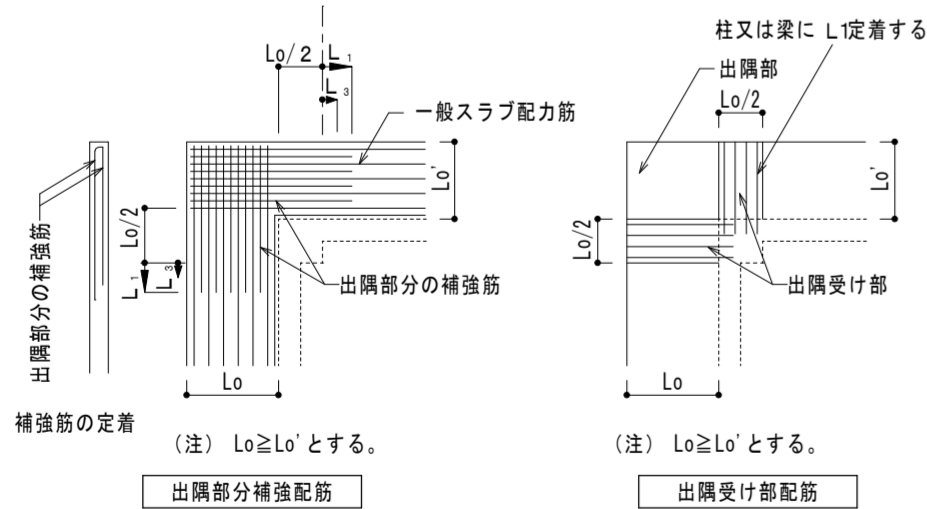
※注(1) 先端の折曲げ長さは、スラブ厚よりかぶり厚さを除いた長さとする。
 (2) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着長さとする。

(b) 先端に壁が付く場合



(c) 出隅部

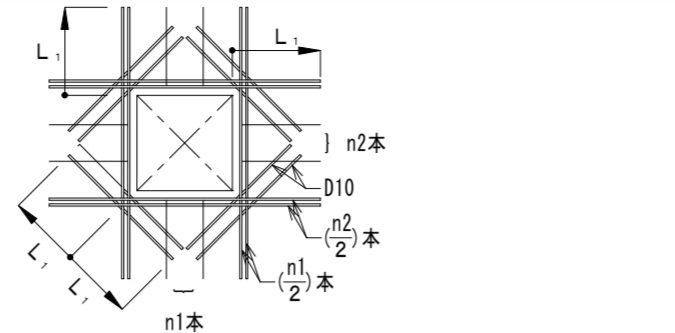
(1) 補強の配筋は図示による。図示がなければD10@100ダブルとする。配筋方法は、下図による。
 (2) 出隅受け部(下図のハッチ部分)の配筋は図示による。



9-5 スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。

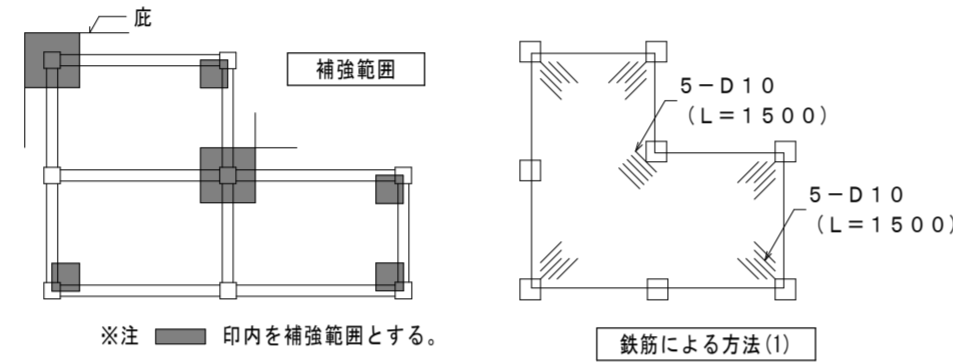
(a) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13(L=2L₁)シングルを上下筋の内側に配筋する。



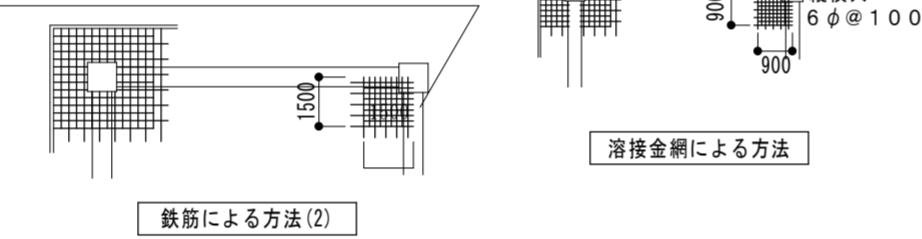
(b) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9-6 屋上スラブの補強筋

(a) 屋上スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を配置する。
 (b) 下図鉄筋による方法(1)による場合、補強筋は上端筋の下側に配置する。
 (c) 鉄筋による方法(1)によると、スラブ筋が密となり施工が難しいと判断された場合は、下図の鉄筋による方法(2)とする。

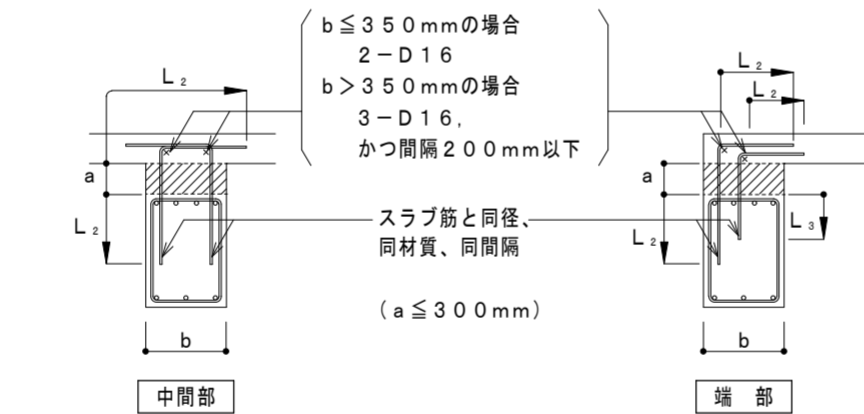


スラブ筋と同径で1/2ピッチ以下(≒@100)程度となる様に上端に補強筋をいれる



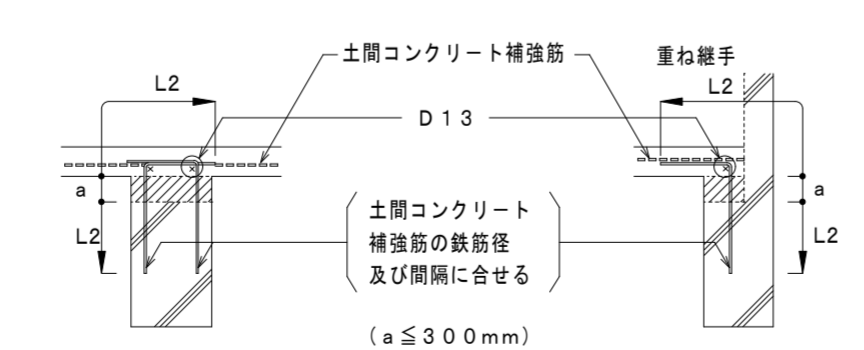
9-7 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土(捨てコンクリート等の場合を含む)に接する構造スラブをいう。

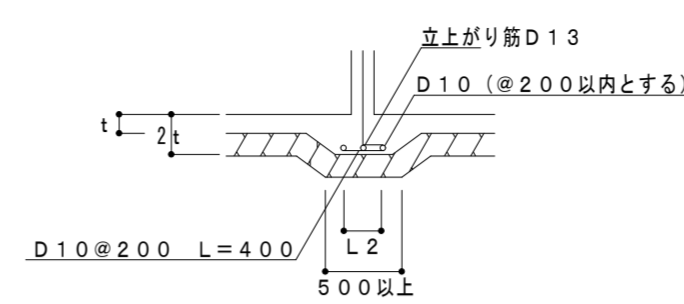


9-8 土間コンクリートの補強筋

(a) 土間コンクリートの補強筋(土間配筋)は設計図による。
 (b) 基礎梁との接合部は下図による。



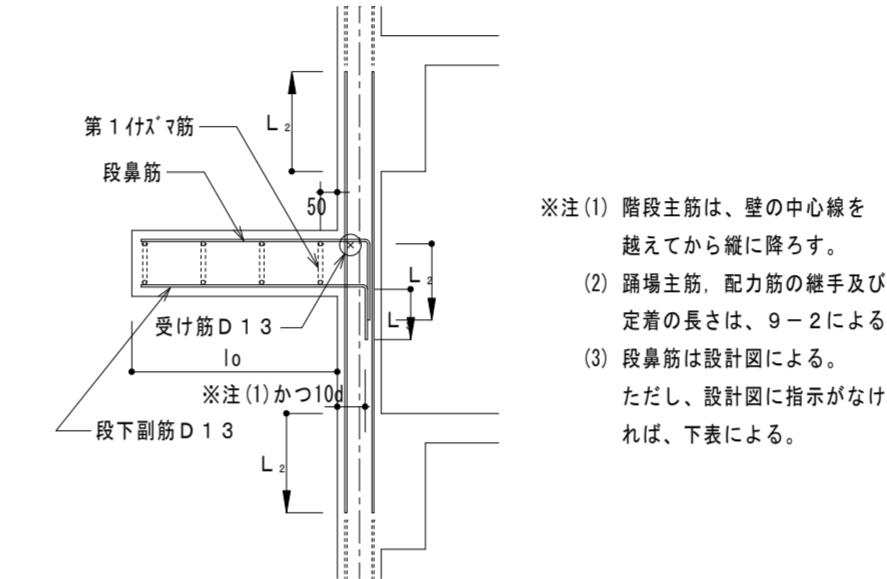
(c) 雑壁下に基礎梁(基礎小梁を含む)がない場合、特記なき限りは下図による。



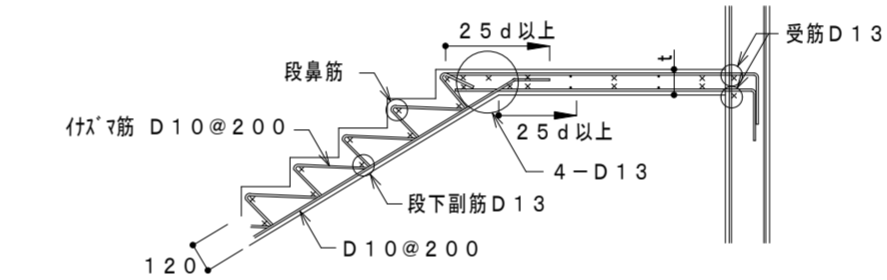
10-1 階段の配筋

階段の配筋は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す基準配筋及び下表による。

10-1-1 片持ちスラブ形(SS-A)



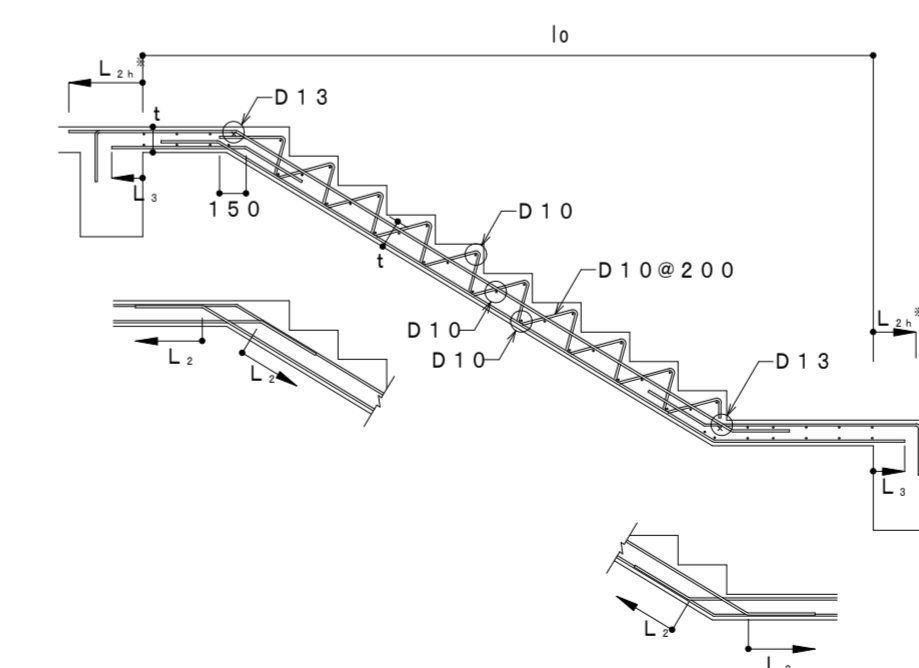
※注(1) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
 (2) 踊場主筋、配力筋の継手及び定着の長さは、9-2による。
 (3) 段鼻筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ、下表による。



<階段配筋リスト(片持ちスラブ形)>

符号	段鼻筋	踊場		スパン l_0 (mm)
		スラブ厚(t)	主筋・配力筋(上、下端筋)	
SSA1	2-D13	150	D10D13交互@200	$l_0 \leq 1500$
SSA2	2-D16	150	D13@200	$1500 < l_0 \leq 2000$

10-1-2 二辺固定スラブ形(SS-B)

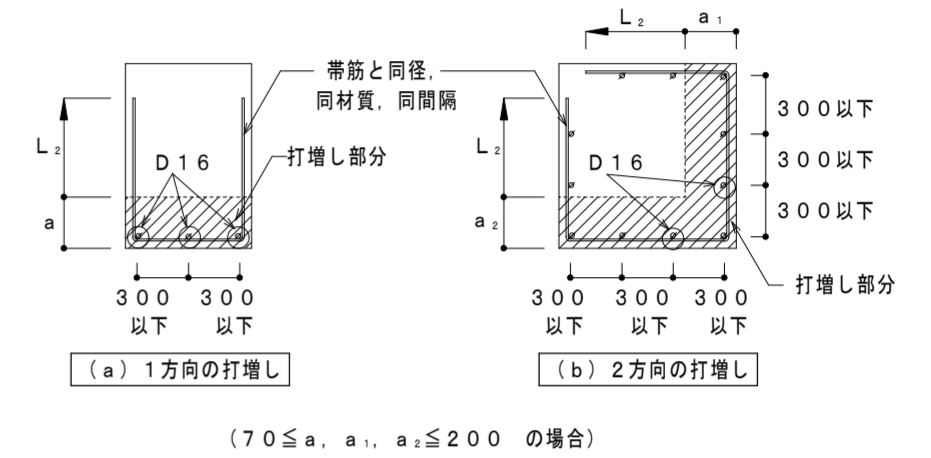


<階段配筋リスト(二辺固定床板形)>

符号	スラブ厚(t)	配力筋(踊場)		スパン l_0 (mm)
		上、下端筋	上、下端筋	
SSB1	180	D16-125@	D13-200@	$4000 < l_0 \leq 5000$
SSB2	200	D16-100@	D13-200@	$5000 < l_0 \leq 6000$

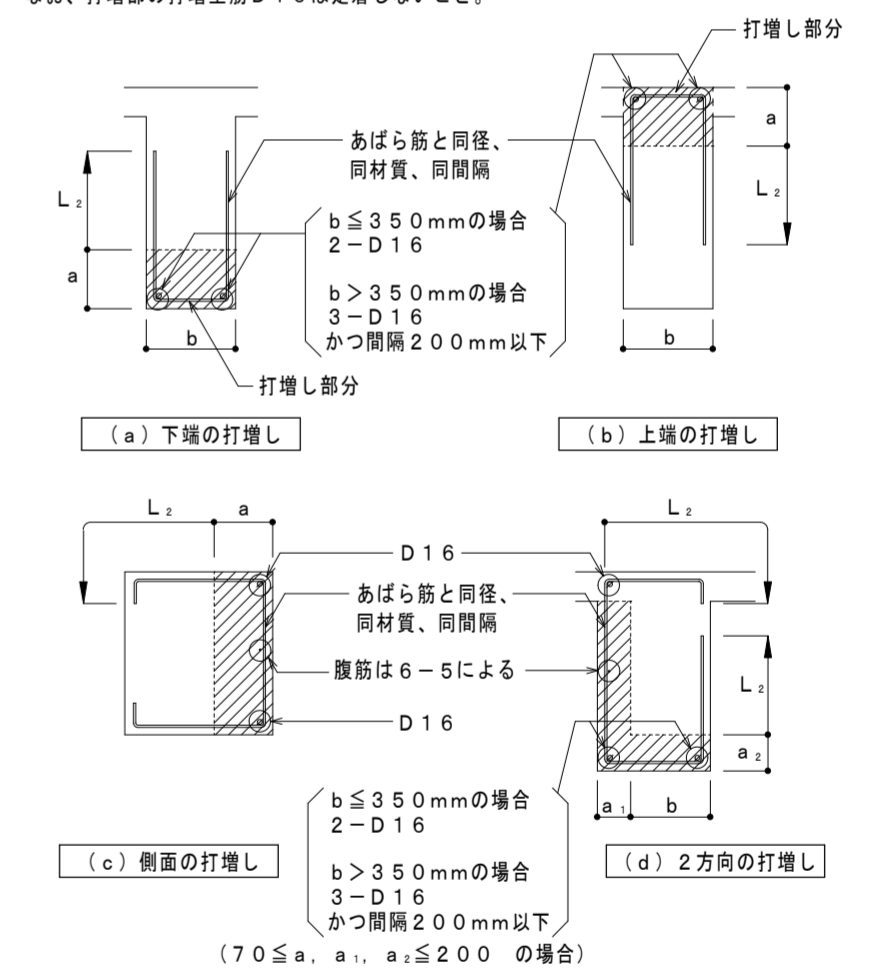
11-1 柱の打増し補強

柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



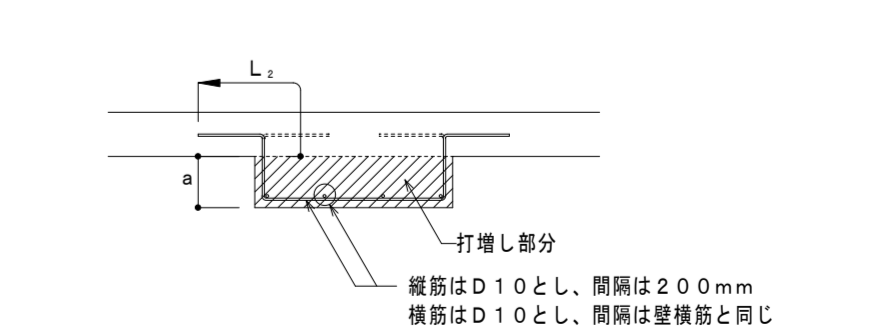
11-2 梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。なお、打増部の打増主筋D16は定着しないこと。



11-3 壁の打増し補強

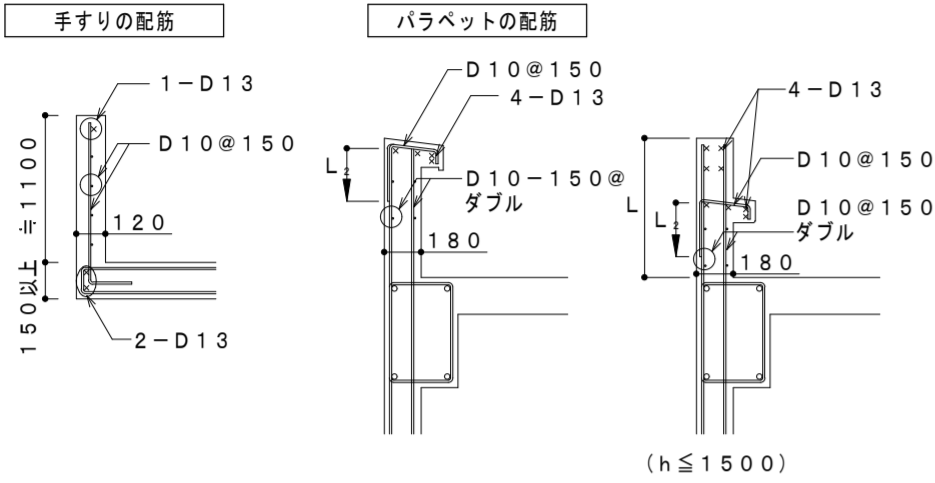
壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さが50mm以上に適用する。



鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 6

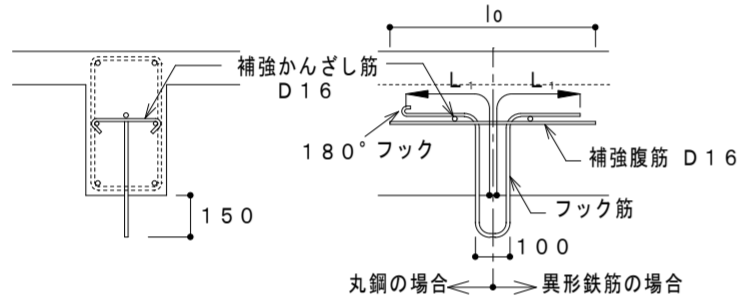
12-1 手すり及びパラペットの配筋

手すり及びパラペットの配筋は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す配筋による。



12-2 機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、下記による。



13-1 補強コンクリートブロック造

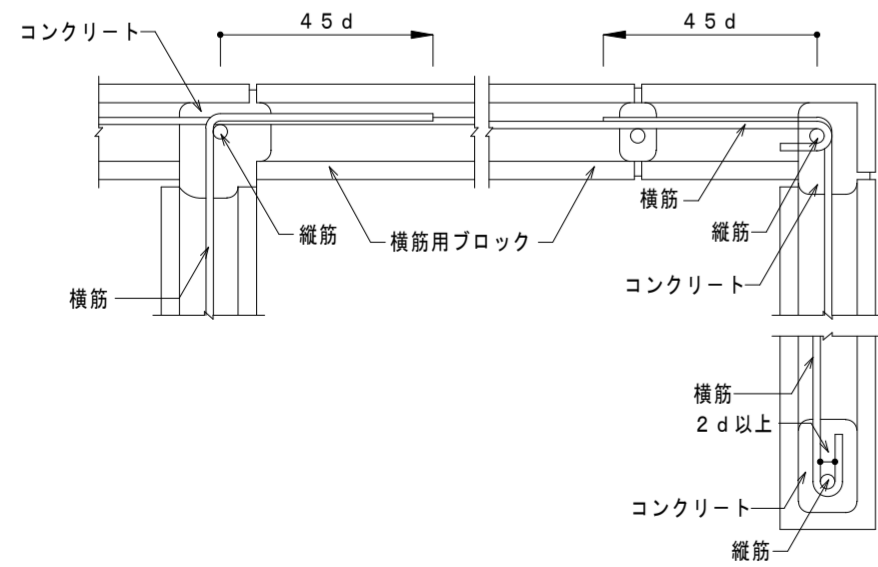
13-1-1 一般事項

下記に定める以外の事項は1~12による。

- (a) 壁縦筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、臥梁、基礎等に定着する。なお、壁縦筋に継手を設けてはならない。
- (b) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
- (c) 壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックフェイスは、かぶり厚さに含まない。
- (d) 壁鉄筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは40dとする。

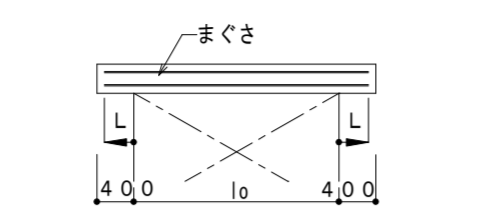
13-1-2 各部の配筋

- (a) 各部の配筋は、設計図による。
- (b) 設計図に指示がなければ交差部、端部（開口部）の配筋は、下図による。



- (c) まぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下図による。なお、既製まぐさを使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

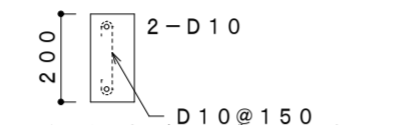
(I) 一般の場合



※注 L はかぶり厚さを除いた長さを示す。

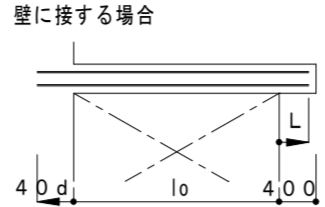
まぐさの配筋

(400 < lo ≤ 1000 の場合)

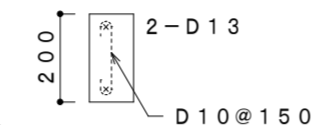


※注 まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

(II) 開口部が鉄筋コンクリートの柱又は壁に接する場合



(1000 < lo ≤ 2000 の場合)



14-1 コンクリートブロック帳壁

14-1-1 一般事項

- (a) 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。なお、主筋には継手を設けてはならない。ただし、両面5d以上又は片面10d以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
- (b) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
- (c) 壁鉄筋の重ね継手長さは40dとし、定着長さは下記による。
 - (1) 帳壁配筋の構造体部分への定着長さは25dとする。ただし、係員の承諾を受けて、あと施工アンカーとすることができる。
 - (2) (1)以外の定着長さは40dとする。
- (d) ブロック積みのスパン及び高さは、下記による。

ブロック厚さ	スパン及び高さ
100	2500
150	3500

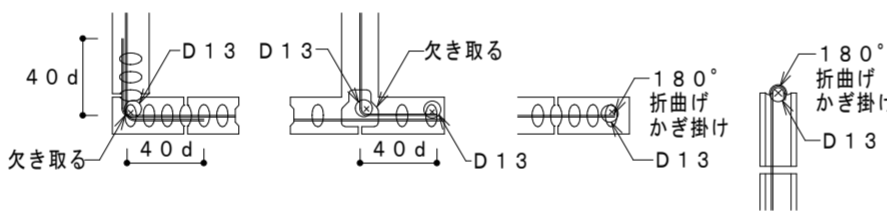
14-1-2 各部の配筋

- (a) 壁の配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下表による。

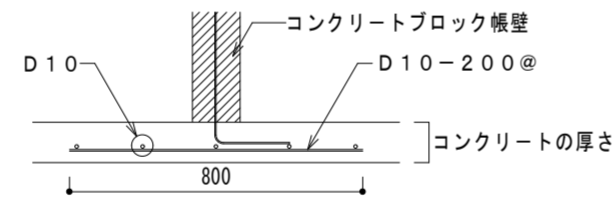
<壁の配筋>

縦筋	横筋	開口補強筋（縦横筋）	端部補強筋
D10@400	D10@400	1-D13	1-D13

- (b) 帳壁の交差部、端部（開口部）の配筋は、下図による。

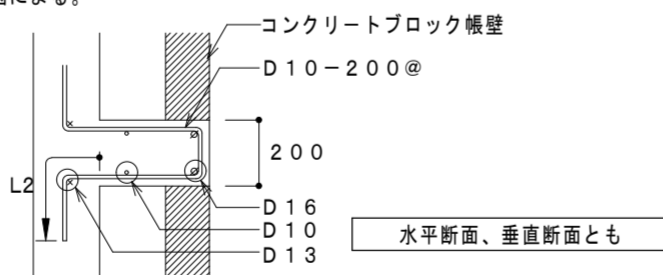


- (c) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



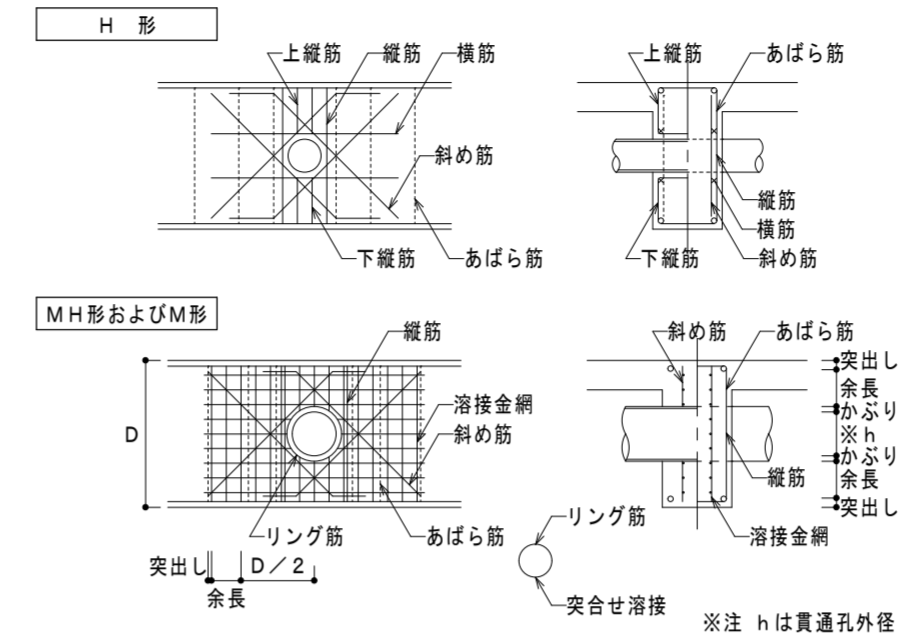
- (d) コンクリートブロック帳壁との取合い

- (1) 控壁の配置は、設計図による。
- (2) 配筋は、下図による。

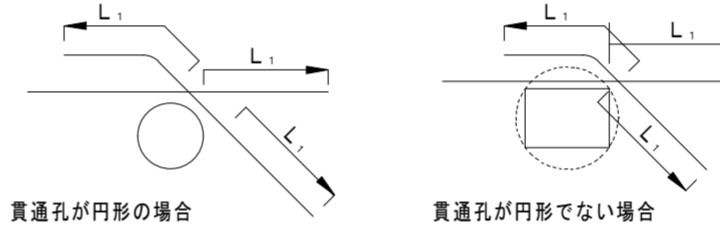


15-1 梁貫通孔の補強（一般事項）

- (a) 梁貫通孔の補強は下記による。梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。



- (b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- (c) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部が端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。但し、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (e) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (g) 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



- (h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略する。
- (i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (k) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (l) その他、高強度梁貫通補強筋を使用する場合は、大臣認定または日本建築センターの技術審査証明を受けた工法とすること。

15-2 補強の形式と種類

補強形式は下表により、配筋種別は設計図（または、右表）による。

15-2-1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H 1		なし			[Diagram]
H 2	2-2-D13		なし	なし	
H 3		2-2-D13			[Diagram]
H 4	4-2-D16		2-2-D13	2-2-D13	
H 5		4-2-D13			[Diagram]
H 6	4-2-D19		2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22		2-2-D13	3-2-D13	

※注 ----- は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
M 1	2-2-D13	なし	なし	[Diagram]
M 2	4-2-D13			
M 3	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	[Diagram]
M 4	6-2-D13			

※注 ----- は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-3 MH形配筋

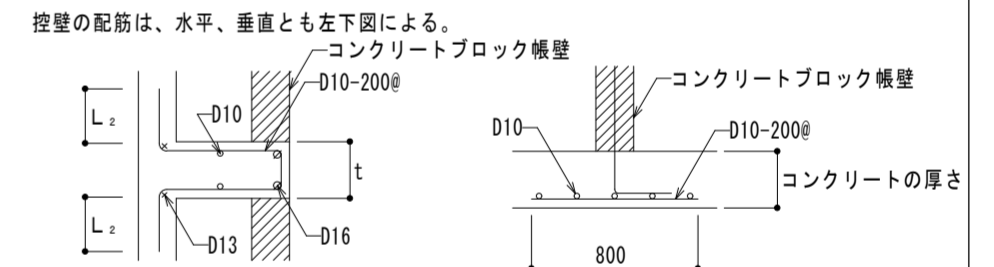
配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
MH 1		なし	なし	なし	[Diagram]
MH 2	2-2-D13	2-2-D13			
MH 3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ@100	13φ	[Diagram]
MH 4	4-2-D13				
MH 5	4-2-D16				
MH 6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	[Diagram]
MH 7	4-2-D19				

15-2-4 補強配筋種別と使用部位・数量

階	梁記号	スリーブ外径	補強配筋種別	スリーブ材質	数量
	※	使用部位、スリーブ外径、数量は設計図による。			
			補強配筋種別は、大臣認定または日本建築センターを受けた		
			高強度梁貫通補強筋を使用するものとする。		

16 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁の配筋



- (b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強
帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は右図による。

TITLE (仮称) 長田・新居小学校建設工事(建築主体工事)

ARTICLE

REVISION

管理建築士

DESIGNER

NAME

DATE

SCALE

DRAWING NO

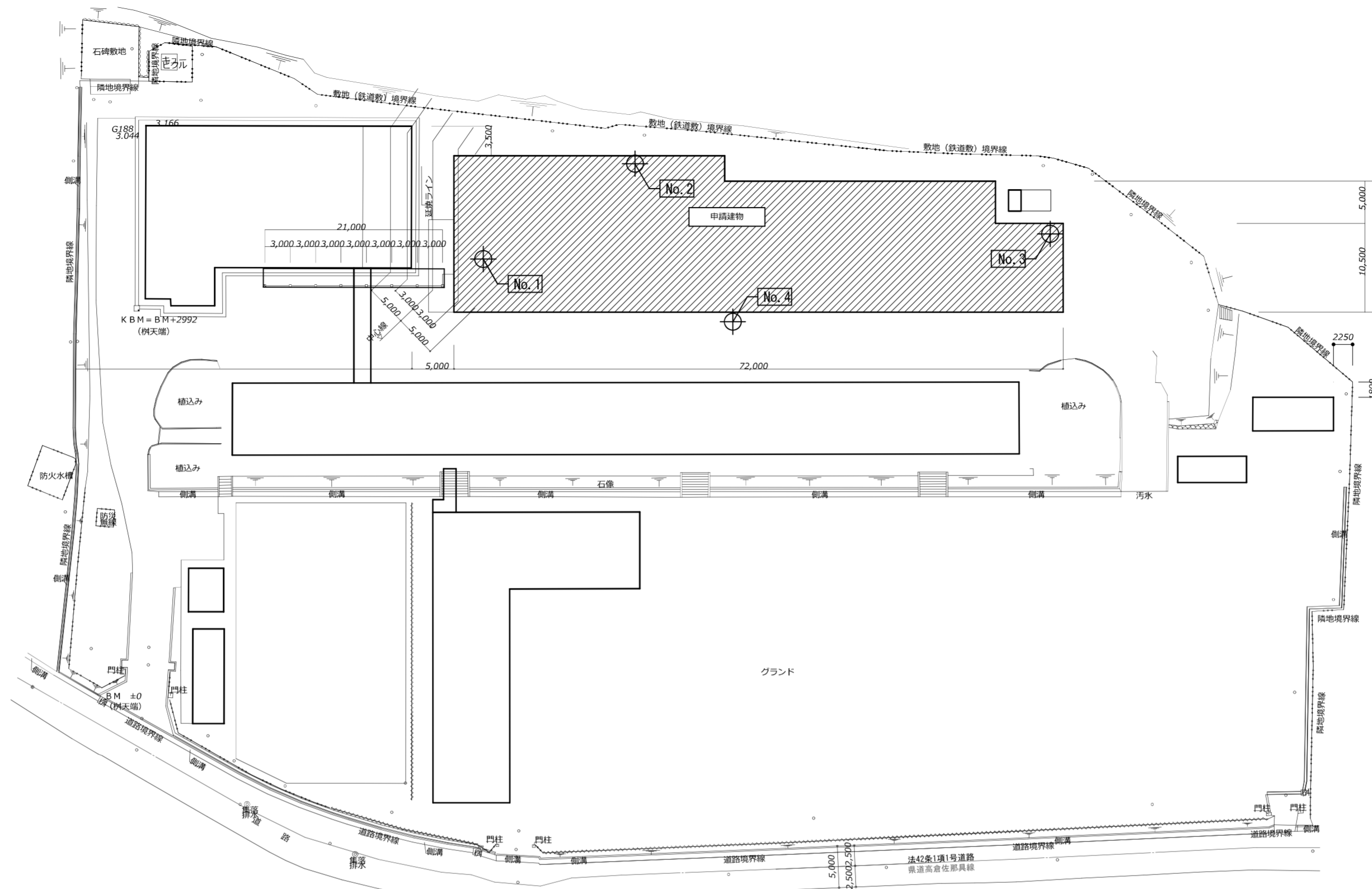
ORIGINAL NO

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)

2017.06

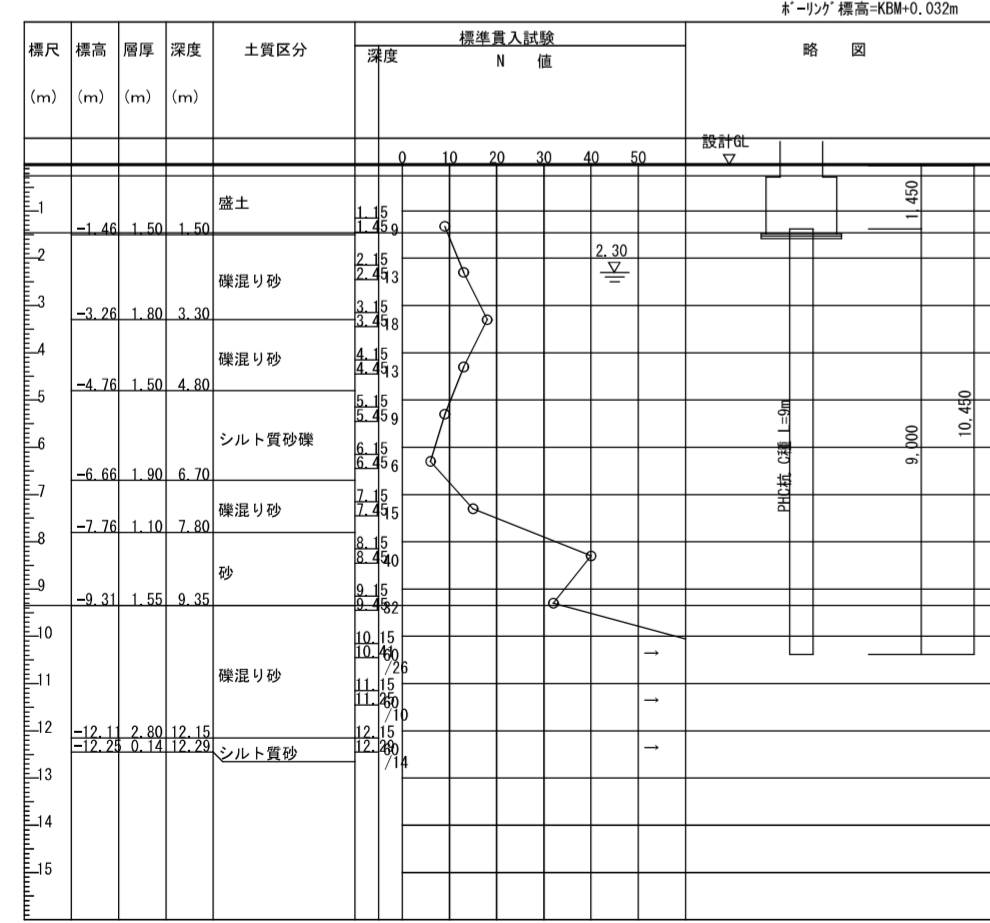
(A2)

S-07

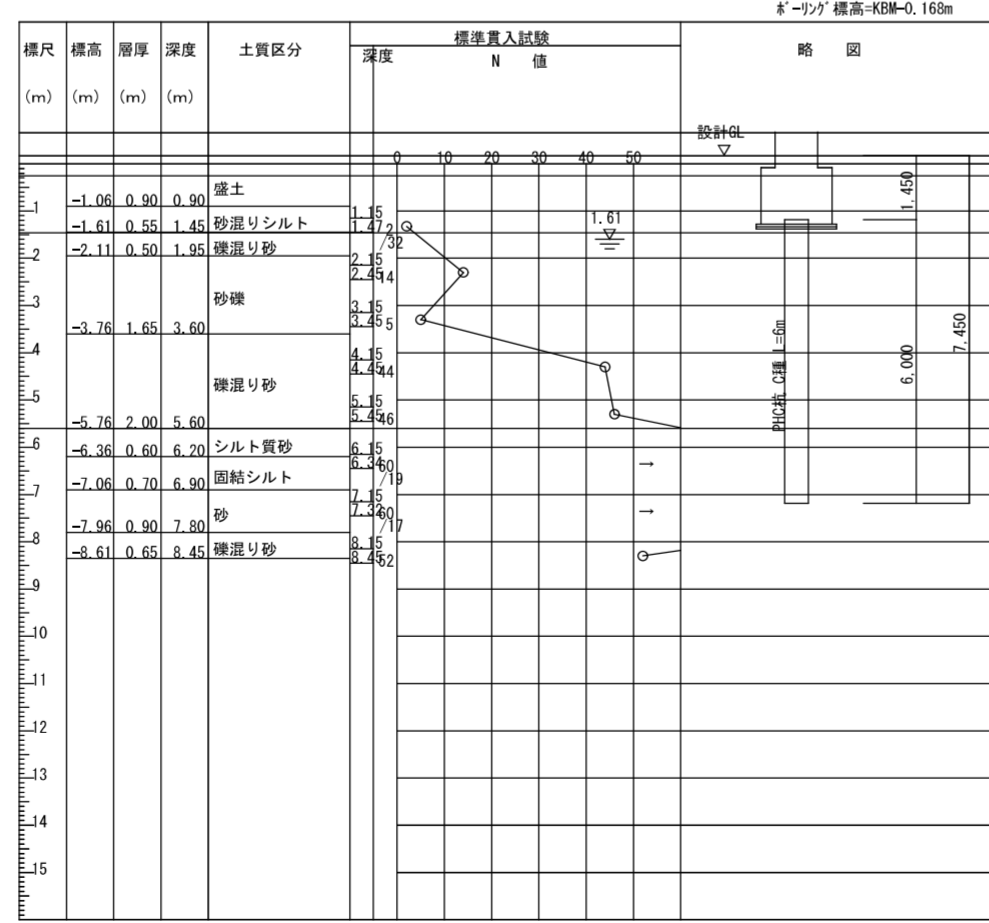


ボーリング位置図 A2:S=1/500 A3:S=1/707

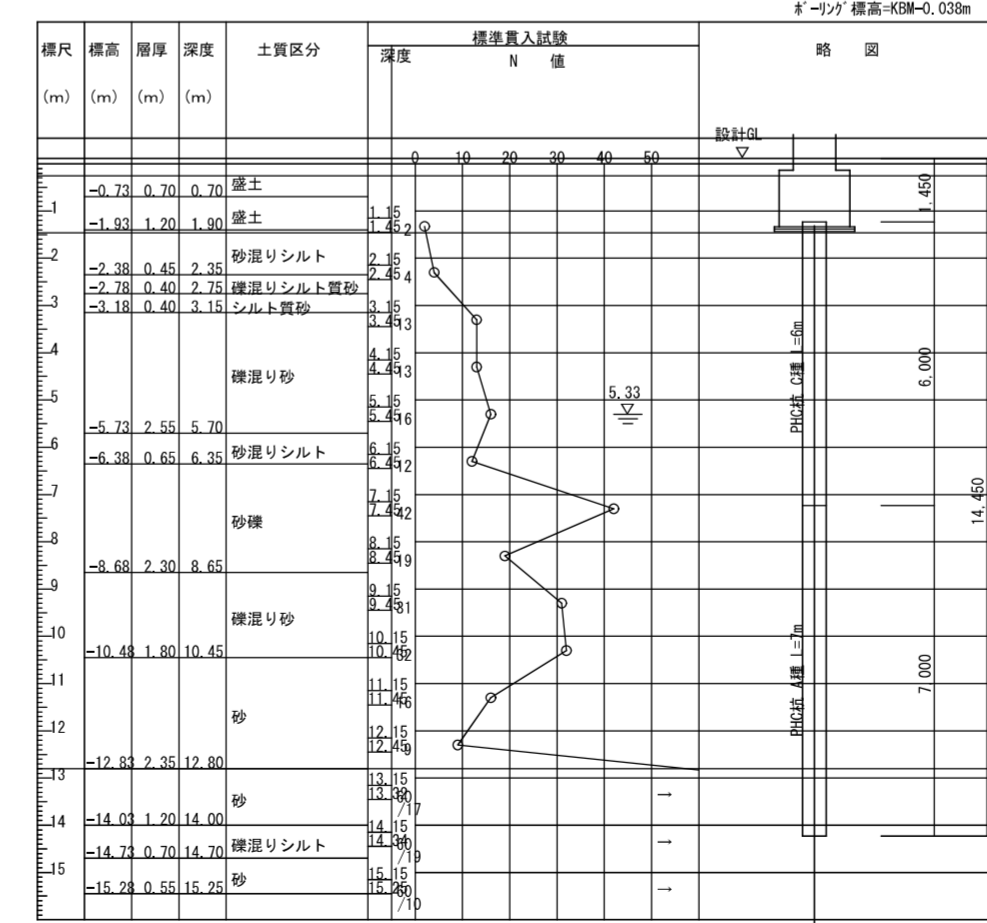
ボーリング No. 1 柱状図



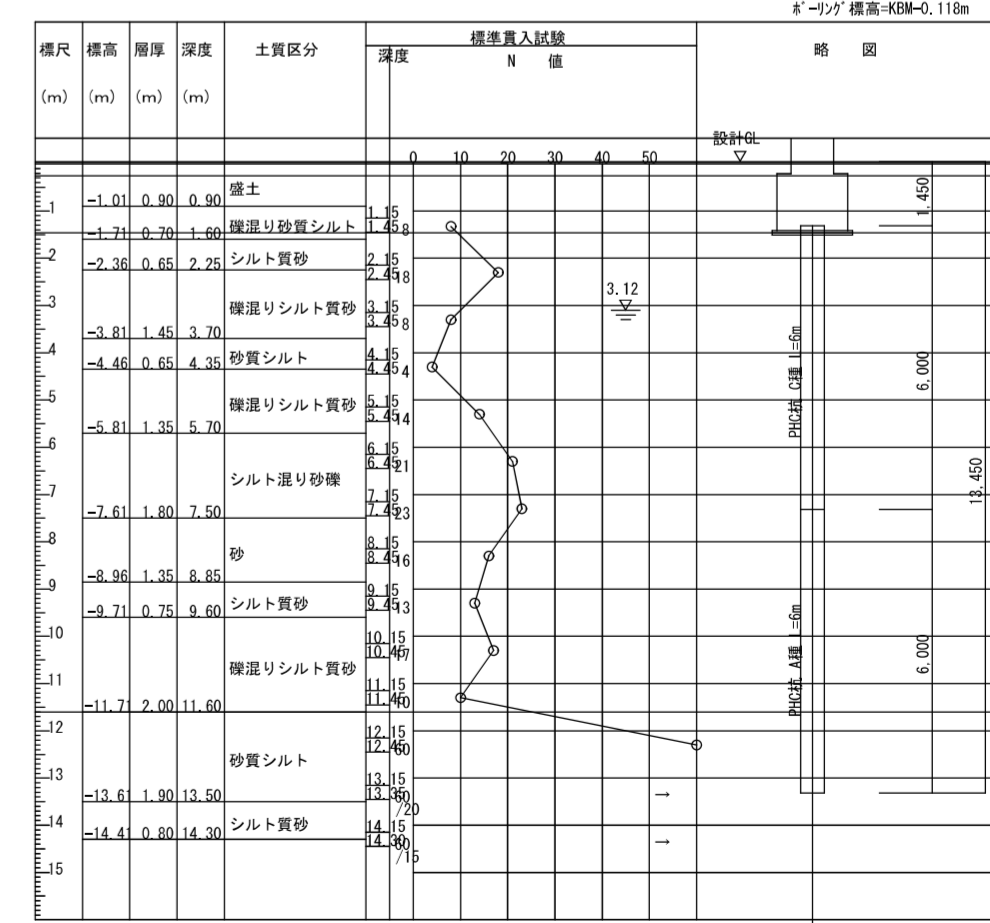
ボーリング No. 2 柱状図



ボーリング No. 3 柱状図



ボーリング No. 4 柱状図



TITLE (仮称)長田・新居小学校建設工事(建築主体工事)	ARTICLE	REVISION	管理建築士	DESIGNER	NAME ボーリング柱状図	DATE 2017.06	SCALE (A2) 1/500 (A3) 1/707	DRAWING NO S - 08
ORIGINAL NO								

電気設備工事特記仕様書

1. 工事概要
1. 工事名 (仮称) 長田・新居小学校建設工事(電気設備工事)
2. 工事場所 三葉県伊賀市西高倉3 146番地
3. 建物名称
4. 工事項目
5. 指定区分
6. 概成工期
II. 特記仕様書
1. 一般事項
(1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁庁舎補修部の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工編、最新年度版)」...

表2「機器取付高さ」 図面に特記なき場合は下表による。ただし、これよりがたい場合は監督員と協議する。
表2「完成書類」 引き渡し時には下記の書類を提出する。
1 完成図書
2 完成図書
3 竣工図
4 竣工図(縮小)
5 竣工図(電子データ)
7 竣工図
8 機器完成図

表3「完成書類」 引き渡し時には下記の書類を提出する。
1 完成図書
2 完成図書
3 竣工図
4 竣工図(縮小)
5 竣工図(電子データ)
7 竣工図
8 機器完成図

表4「完成書類」 引き渡し時には下記の書類を提出する。
1 完成図書
2 完成図書
3 竣工図
4 竣工図(縮小)
5 竣工図(電子データ)
7 竣工図
8 機器完成図

22 他工事との工事区分
24 保護、結露防止
25 電線類
26 合成樹脂製可とう管
27 二種金属製可とう管
28 電線本数、管径など
29 インサート
30 呼び線
31 フラッシュプレート
32 フロアプレート/ベース
33 ハンドホール蓋
34 支持金物、固定金物
35 あと施工アンカー
36 接地極の種類・表示等

接地極の種類 表1
接地極の種類 記号 接地抵抗値 接地極の規格、数量
E/A 〇以下 E/P×2
E/B 〇以下 E/B(D=14又はW=40)×3連-2種

37 総合調整
38 塗装工事
各機器の個別運転後に総合調整を行い、報告書を作成すること。
3. 工事範囲
4. 電気方式
5. 配管
6. 分電盤類
7. 機器類
8. 施工方法
9. 照明器具
10. 防炎用照明器具
11. 照度測定
12. ハイテンションアワレット
13. 人感センサープレート

1 工事範囲
2 電気方式
3 施工方法
4 照明器具
5 防炎用照明器具
6 照度測定
7 ハイテンションアワレット
8 人感センサープレート
9 予備配管
10 駐車管理設備
11 防火・入道管理設備

1 電気方式
2 施工方法及び仕様
3 施工方法
4 管轄種
5. 電磁閉鎖用押印(遠方操作用)
6. 電動機への接続
7. 電動機等の接地
8. 連相用コンデンサ
9. 電気自動車用充電装置

1. 工事範囲
2. 受電部
3. 避雷導線
4. 接地極
5. 測定用補助接地極
6. 機器類
7. 電気方式
8. 引込ケーブル
9. 配電盤
10. 主送断装置
11. 高圧機器類
12. 変圧器
13. 進相用コンデンサ
14. リアクトル
15. 自動力率制御装置
16. 測定用補助接地極

1. 工事範囲
2. 形式
3. 発電機
4. 原動機
5. 燃料
6. 太陽光発電装置
7. 系統連系
8. 工事範囲
9. 電機機への配線
10. ローテーションアワレット(電事用)

1 工事範囲及び施工方法
2 構内情報通信網設備
3 情報表示設備
4 映像・音響設備
5 誘導支援設備
6 防犯・入道管理設備
7 構内情報通信網設備
8 情報表示設備
9 映像・音響設備
10 誘導支援設備
11 テレビ放送設備
12 監視カメラ設備
13 駐車管理設備
14 防火・入道管理設備

1 工事範囲
2 火災報知装置
3 非常警報装置
4 自動閉鎖装置
5 ガス漏れ火災警報装置

1. 電気方式
2. 施工方法及び仕様

1. 工事範囲
2. 監視制御対象設備
3. 表示操作装置
4. 監視制御装置
5. 工事範囲
6. 電気方式
7. 配管
8. 柱上機器
9. 高圧ケーブルの端末処理
10. その他
11. 外灯設備
12. 上下対策
13. 標識シート
14. 予備配管

1 工事範囲
2 用途
3 施工方法
4 標識シート

表2「機器取付高さ」 図面に特記なき場合は下表による。ただし、これよりがたい場合は監督員と協議する。
表3「完成書類」 引き渡し時には下記の書類を提出する。
表4「完成書類」 引き渡し時には下記の書類を提出する。

表5「完成書類」 引き渡し時には下記の書類を提出する。
1 完成図書
2 完成図書
3 竣工図
4 竣工図(縮小)
5 竣工図(電子データ)
7 竣工図
8 機器完成図

TITLE (仮称)長田・新居小学校建設工事(電気設備工事)
ARTICLE 電気設備 特記仕様書
REVISION
DRAWING NO E-01

